

# 行動小児歯科学特論（仲井 雪絵）

Advanced Course of Behavioral Pediatric Dentistry (Yukie Nakai)

## キーワード

- ① 行動変容
- ② 発達理論
- ③ 認知理論
- ④ 学習理論
- ⑤ 小児歯科臨床

関連する学位授与方針  
DP(ディプロマポリシー)

①,②,④,⑤

関連する教育実施方針  
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,④,⑤,⑥

## 授業概要

行動科学とは、心理学、生理学、社会学、経済学、生態学、精神医学等の多領域の理論を土台にした広範囲にまたがる学問である。歯科医療・歯科医学領域では「歯科恐怖症」の解明と行動科学的(非薬物的)対応法、保健指導における動機付け、医療コミュニケーション、そして小児患者への対応としての行動マネジメントの分野で主に発展してきた。本講義では、歯科臨床や教育の場で使える行動科学の基礎知識として、発達理論、認知理論、学習理論を解説し、小児歯科領域における応用について議論する。

## 授業科目の学修目標

本科目では、小児歯科領域における行動科学の応用可能性を理解し、治療時の対応法ならびに保健指導の場面での行動変容を導く活用法に展開する力を養うために必要な知識・態度を修得する。

## 授業計画

- ① 行動科学の基盤となる発達理論、認知理論、学習理論 4コマ 仲井雪絵
- ② 小児歯科領域における行動科学を応用した先行研究 4コマ 仲井雪絵
- ③ 行動科学的視点から研究課題の解決に必要な研究方法・統計学を学ぶ 4コマ 仲井雪絵
- ④ 上記を基盤とした研究計画立案 18コマ 仲井雪絵

## 教科書および参考書

必要に応じて提示

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯科を含めた健康情報の捉え方に関する知識を有していること。国内外の原著論文や総説論文、Reference manualを熟読し、その内容を理解する能力が求められる。

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 行動科学の基盤となる発達理論、認知理論、学習理論を説明できる
- ② 小児歯科領域における行動科学を応用した先行研究を概説できる
- ③ 行動科学的視点から研究課題の解決に必要な研究方法・統計学を説明できる
- ④ 上記を基盤とした研究計画を立案できる

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	0%	60%	0%	40%	0%

## 評価の要点

- 成果発表: 研究計画に基づき収集されたデータを統計分析し、その結果と考察を発表する 20%×3回
- 口頭試問: 授業計画で行った知識の理解度を判定する 10%×4回

## 理想的な達成レベルの目安

理想的なレベルを80%以上とする。